

## ワークショップWS3-1

## 東京都保健医療公社荏原病院における高気圧酸素治療適応の変遷

土居 浩 山川功太 吉田陽一 徳永 仁  
望月由武人

東京都保健医療公社荏原病院脳神経外科

＜目的＞従来の高気圧酸素治療 (HBO) の保険適応の疾患以外にも、各臨床科においてHBOの効果の浸透が徐々になされており、臨床各科との協力のもと、HBOの新たな適応の検討を加えた。

＜対象＞平成15年からH22年の間、当院で行われた治療実績の中の診療別患者数の変遷を検討した。

＜結果＞H15年は患者数236名、延べ患者数2011例であり疾患の中に整形外科は含まれなかった。その後昨年の学会で感染症での有効性が周知され、H19年には患者数513名、延べ患者数3350名に増加した。整形外科もインプラント感染を中心に患者数20名、延べ患者数145名の増多を見た。またこの頃より、当院でも放射線治療が開始され、従来は歯科領域の放射線性下顎骨髄炎以外にも泌尿器科領域、婦人科領域の出血性膀胱炎、放射線性びらん適応の患者が散見されるようになった。さらに脳の放射線性壊死にも効果が期待され、適応を広げた。H22年には患者数787名、延べ患者数4461名に達した。この間皮膚科では従来の褥瘡、DM壊疽以外に膠原病による、四肢末梢の難治性潰瘍の応用も開始し、潰瘍治癒以外に痛みも激減した。皮膚科患者数14名、延べ患者数24名で、H23年度は年度途中であるがさらに増加している。診療科別では従来の脳外科、耳鼻咽喉科、口腔外科に続き、皮膚科、整形外科、外科、眼科の患者増を見ている。

＜考案＞現在欧米のHBO教科書に準じて、臨床各科に有用性を問うていた時期は過ぎ、他施設からの依頼も増加し、HBOの有用性が浸透してきており、新たな保険適応の検討時期に来ていると思われた。治療症例を増加するためには、各科におけるHBOに対する理解を深めるとともに、ともに各種試みの検討に入っていると思われる。たとえば皮膚科では従来の難治性潰瘍の治療に関連して、糖尿病性壊疽に対す

る効果の認識を深めることが重要である。さらに膠原病特にSLEなどによる末梢性の血管炎病態は潰瘍だけでなく、激的な痛みを伴うことが多く、HBOにより潰瘍改善だけでなく、痛みに対する効果ははっきりしており、その面からも適応を拡大していく予定である。感染に対しては当院では全科での認識が広がり、症例数が激増した。しかしその中には全身状態が悪い症例も多く、HBO装置内での管理に難渋する場合も多いが、それに応じて臨床工学士、看護師の協力も必要と思われた。

＜結語＞今後もHBOの適応に関して各種文献による検討を行いevidenceを確認する必要があると思われた。